

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	430 献血事業経費	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	01	保健衛生費
		目	01	保健衛生総務費
基本 施策	01 10万市民の健康を維持する	細目	239	保健衛生事務経費
		細々目	02	献血事業経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	130900		担当者 氏名
	名称	健康福祉部 健康推進課		
		入本 理	連絡先	22 - 9653 (内線) 2713

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	18歳以上の市民	※対象件数
成果(どうする)	医療に必要な血液を安定供給する	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H21 事業 内容	・献血事業	
	・補助金交付先 献血推進協議会 活動内容 献血協力者に粗品を進呈している。	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			献血実施回数	回	目標 20 実績 20	目標 20 実績 16

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
				献血者数	人	1. 善悪による無償の献血が、真の命を救う」という意識の向上に繋が	目標 520 実績 814

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計(A)	96		96		96		96	
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	96		96		96		96	
事業投入人件費(B)	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720
フルコスト(A)+(B)	816		816		816		816	

事務事業の評価(Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	○
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	○	
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
医療が高度化するなか献血による血液確保は重要である。		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業	○	
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
献血者の組織が弱体化し、血液の確保が困難になる。		
有効 事業 の 継続 性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	伊賀市献血推進協議会を通じて県・企業・各種団体・伊賀市が協働して献血者の組織化を図るには、当協議会の役割は重要であ
達成 度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	【計画に遅れが生じている場合、改善策】 行政の献血日程は企業実施分を考慮した上で血液センターで決められるため、回数が減れば献血者数も減ることになるので、1回当たりの人数増を図るための大型小売店舗での実施回数を増やす。
効率 性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求められることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	協議会運営のため伊賀医師会から寄付金がある。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	大型小売店舗での献血実施回数を増やす。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	平成20年度より、1回増の実施ができた。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	清水 健司
【方向性】	現状維持
【理由】	人間の生命を維持するために欠くことのできない血液は、未だ人工的に造ることが出来ない。さらに血液は生きた細胞で、長期間にわたって保存することも出来ない。輸血に必要な血液をいつでも十分に確保しておくためには、絶えず誰かの献血が必要となるため、現状維持とした。
現時点における課題、その他	1回当たり平均献血者数に著しい増減がある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成24年度までに、1回当たり平均献血者数を増やすため、平成22年度より土曜・日曜の設定日を増やす。